

## 第20回 東日本大震災と赤十字活動について

山本 裕行（日本赤十字社福井県支部

総務課長）

2012年2月11日



### 東日本大震災と赤十字活動について

中野 皆さま、こんばんは。いつもは早川さんが司会をされるのですが、お母さんが今朝早くお亡くなりになられ急遽司会をしていただけないかと、連絡がありました。とても代わりは務まりませんと言ったのですが、こういふときですので、今夜は私が司会をさせていただきますと、引き受けました。中野でございます。どうぞよろしく願いたします。

今夜の講師の山本先生には初めてお会いしますので、ご紹介もできませんが、山本先生どうかよろしく願いたします。

#### 赤十字活動の活用を

山本 皆さま、こんばんは。私は、日本赤十字社福井県支部からまいりました山本です。私は昭和38年の三八豪雪生まれなのです。うちのひょうきんな母親が、ひどい雪だったので名前を「ひどゆき」にしようかと思ったのですが、「ひろゆき（裕行）」になったようす（笑）。

今日はここ旧名田庄村によせてもらいましたが、本当に来たかったです。おせじでもおべつかいでもなんでもなくて、本当に来たくてやって来ました。赤十字という皆さま何を思い浮かべられるかというと、たいがいの県民の方は、献血だとか病院だとか、そういったイメージがございます。しかし、われわれは、お手元の資料にありますように、県下の各公民館長様宛に、「赤十字活動の活用について（依頼）」という文章

を出しています。そこには、次のように書いてあります。「各公民館では防災に関する講座の開設や、自治会・まちづくり協議会等では防災訓練や研修などに取り組んでおられると思います。私も日本赤十字社福井県支部ではこうした機会に、地域に積極的に出向いて、住民の方々の安全と健康増進を図るための応急手当の仕方などをお伝えしながら、赤十字活動への理解推進につなげていきたいと考えております」。それで、旧和泉村だとかいろんな地域をまわりまして、皆さまの都合の付く時間に、夜であろうが朝方であろうが日中であろうが、都合の付く時間にこういった活動の活用についてということ、出かけております。

どういうことをするかというと、それぞれの公民館長もそうでしょうが、市や町もそうですが、地域の住民の方々の健康や安全を願っていますので、そういったことに関して、赤十字を関わらせてください、大いに活用してくださいということで、人工呼吸や心臓マッサージの仕方などや、その他詳しくいろんなことが資料の29ページの「赤十字活動の活用要領」にあります。そのようなことをしています。これら全ては無料ですので、大いに赤十字を活用してくださいとお願いしています。これは、旧名田庄村であっても、あるいは各町内単位でもかまいません。あるいは、お仲間だとかサークルであつてもかまいません。

## 愛のホットライン

これがひとつのお願いですが、実はもうひとつありまして、この資料の最初のページに私の携帯電話番号が書いてありますが、この電話番号を是非皆さまの家のどこかに貼って、私と皆さまの「愛のホットライン」と思っていたいただきたいのです(笑)。笑っておられるかもしれませんが、「愛のホットライン」というのは冗談でも何でもなくて、それでは、なぜ「愛のホットライン」かというと、例えば皆さまの地域の近くで災害が起きたときに、住民の方は、おそらく、近くの小学校や中学校、公民館、集落センターなどに避難されると思います。各市町村には赤十字担当の課がありますが、それらの課は赤十字との連絡をするだけが仕事でないで、いろんな地域の仕事をされているので、赤十字への連絡が遅れてしまう場合があります。そういうときに、住民センターなどに避難された方が、「今何人避難しています」と、この携帯にかけて欲しいのです。夜中でもかまいません。私が先ほど、これは「愛のホットライン」ですよと言ったのは、この電話にかけていただきますと、私たちは、毛布や、緊急セットといまして、毛布やその他の日用品やラジオや懐中電灯が入っています。それをお配りさせていただきます。

小学校や中学校に避難された場合は、たいがいは体育館に避難されます。公民館と違って下が木の床なのでとても冷たい。その場合は、安眠セットといって、マットや耳栓やアイマスクなどをお一人お一人にお配りします。それで、「今ここには何人の方が避難されています」と、こ

の携帯電話に連絡していただければ、私どもはこれらの荷物をトラックに積んでどつと直ちに運び入れるのです。

ふたつお願いしたいと言いました。まず、この携帯電話番号を憶えていただいて、何かあったときにはすぐに連絡してください。赤十字社の福井県支部は福井市にあるので、名田庄までは2時間半ほどかかります。毛布などは自分のところから持って来た方がはよいと思われるかも知れませんが、日赤支部は全国の四十七都道府県にありますので、途中の道が通れなくて小浜から来られない場合は、京都から来ることにもなります。京都の日赤がやって来たり、滋賀県の日赤がやって来たりできるのです。横の連絡をとって少しでも早く皆さまのところに行くようにするのはです。そういうことができますので、是非連絡をしていたきたいと思います。

一昨年も夜中に池田町で山火事があつて、夜の11時半ごろに私の携帯に連絡が入って、すぐさま大きな釜を持って駆けつけました。なぜかという、山火事のような場合には、消防や警察の方が山に行っているので、地元の赤十字奉仕団の人は何をするかという炊き出しをするのです。それで大きな釜を持って行きました。それで、地元の方と一緒に炊き出しをして消防団の方々ににぎりなどを配るのです。そういうこともさせていただったので、連絡してくださいと言っています。また、例えば、「避難している人の中で怪我をしている人がいます」となれば、私どもは医者や看護師を連れて皆さまのそばに必ず行くのです。

### 日赤の活動は皆さまの寄付で成り立っています

なぜ日赤がこういうことができるかというと、日赤の活動というのは、皆さまからの寄付で成り立っているからです。皆さまのおうちで赤字マークが貼つてあるうちがあるかと思いますが、これは年間500円以上出していたいただいたおうちで、赤十字の会員になっていたおうちです。日本赤十字社の社員とよんでいます。門標を掲げているおうちもあるかとおもいますが、これはたまって2万円になったおうちです。特別長い間赤十字にご協力いただいたおうちですよ、ということでも感謝の気持ちとして門標をお贈りさせてもらっています。何時でもどこでも行きますよと言いましたが、そういうときこそ恩返しをするときなのです。夜中であろうとどこであろうと行きます、どうぞ気軽に電話してくださいとお願いしている次第です。

### 東日本大震災のときの救護班

東日本大震災が昨年3月11日の午後2時46分に発生しました。私どもには救護班というのがありまして、これは医師が一名、看護師長が一名、看護師二名、主事二名の六名体制です。通常はこの六名体制ですが、今回は遠いところでもあったので、医師も複数、看護師も複数で編成しまして、総勢十名にして、3時間後の17時に救護班の第一陣が出ました。各県には日赤の支部がありますから、被災の場合、私

どもはその被災支部に向かいます。その支部長の采配のもとで活動します。

阪神大震災以降、災害があつた時は、近くの大きな病院も医療班として協力してください、となつてきています。しかし、このような活動ができるのは災害救助法が適応されたときで、そのときにこれら一般の病院が動くこととなります。しかし、赤十字は災害救助法が適応されなくても動くのです。これはなぜかという、災害救助法が適応されるということは国がその活動費を出しますということです。赤十字は、災害救助法が適応されようと、されまいが行きますといったのは、われわれは皆さまのお金で活動させてもらうからで、皆さまからの連絡は勅命のように思うのです。天皇陛下からのお言葉のように思つて行かせてもらつているのです。どんどんどんどん呼んでください。行つてなんでもなかつたなら、それはそれでいいのです。何かあるかも知れないから私たちは行くので、どんどん活用してください。

東日本大震災は本当に未曾有の災害です。これまで、阪神大震災もそうですし、中越沖もそうですし、能登半島もそうですが、その日のうち、あるいは翌日には私は現場にいました。しかし、今回の地震は全く違つていました。これまでの地震では、道の両側に家があるとすると、片方の家は倒壊しているが片方はなんともないというような状況でした。しかし、今回の地震では、地震のあと大津波が来て、地域全体、名田庄で言えば、三重とか久坂とかの地域だけでなく、名田庄全体を飲み込んでしまったのです。

宮城県や岩手県の河岸地域は三陸地方と言われていますが、三陸地方には昔から「津波でんでん」という言い伝えがあるのです。どういふことかと言いますと、目の前に子供がいようがおじいちゃんがいようが津波が来たなら自分一人で早く高台に逃げろという、厳しくも悲しい言い伝えなのです。これまで三陸地方の方々は津波の訓練を何回も何回もしました。今回も、津波が来る前に訓練をやっていたのですが、「津波が来た」という第一報のときはそれほど襲つてこなかつたのです。だから、なかには、今回も大丈夫だろうと言う方もいらつしたかもしれない。一目散に高台に逃げた方もいらつしていますし、大丈夫だと思つた方もいらつしたかも知れません。それで、第二波がきたときに逃げ遅れてしまった。それが今回の津波でした。

#### 一緒に泣いてください

今回の津波は青森県から750kmの地域を飲み込んでしまいました。これまで私たちは災害現場に行つたときは、「頑張ってくださいね」と言えたのですが、今度はやはりとてもそんなことは言えなかつたですね。ある新聞に、「頑張れよ」は、死の言葉であると書かれていました。それはどういふことかという、ある受験生が受験に失敗して何度も何度も落ちた。そのときお父さんが息子に「頑張れよ、頑張れよ」といつた。息子さんは「お父さんは僕にこれ以上何を頑張れと言うのだ、僕はこんだだけ頑張っているのに、お父さんはまだ頑張れと言うのか、僕は

とてもお父さんの期待に応えられない」と言つて自殺してしまつた。「頑張れよ」はある意味、死の言葉である、競争社会から生まれた言葉であるから、といわれています。

これまでの災害では、われわれは「頑張ってください」と言つてきました。しかし、今回はとてもじゃないけれどそんなことは言えないですよ。本当に、こういう言葉をかけたらいいか、分からないです。看護師は心のケアの要員にもなっています、心のケアというのは、いろいろ言葉を聞いて、慰めるというと語弊があるかも知れませんが、そういう心のケアというのがあります。今回の東日本大震災の被災者の方の言葉を聞いていると、とてもじゃないけれど、耐えられない、そういう言葉ばかりをお聞きしました。そのときに、私が看護師に言つたのは、「どうぞ一緒に泣いてください」、「大いに泣きなさい」と。

私が被災地に行つたときに、被災者の方に訊ねたのです。どういう言葉をおかけたらいいのしょうねと訊ねたのです。その方は、「たいへんだったのね」と言われる方がいいと言われました。「たいへんだったのね」と言われれば、自分は起きたことをいろいろ話しをして、もしも私がかりに泣いたときには、一緒に泣いてもらった方がいいと。そういうお言葉だったので。ですから、それを受けて私は、救護班の人や看護師に、今回は一緒に泣いてください、そのほうが人間らしくていいですよ、と言いました。今までの救護班は、被災地に行つたら、凜とした態度を求められた。でも、今回ばかりは、とてもじゃないけれど、そんな凜とした態度はとれなかった。自分もやられてしまいますね。

## 現地での活動、救護班の構成メンバー

私たちは現地に行きますと、だいたい二泊三日で活動をします。48時間対応で寝ずにやりますから、二泊三日が限度です。そして、次の班、次の班と交代していくのです。もし、この旧名田庄村で災害が起つた、土砂崩れが起つた、川が氾濫したというような場合、今日は私たち福井県が当番で二泊三日の活動、次は京都府、その次が三重県など、47都道府県、700の救護班がありますから、順番に二泊三日で活動します。

福井県の場合は、先ほど言いましたように、医師が一名、看護師長が一名、看護師二名、主事二名の六名の体制なのですが、看護師二名のうち一名は助産師の資格を持っているものがあつています。災害現場でお産をする場合がありますから。福井県の場合は原発立地県ですから、もう一人特殊救護要員として放射線技師を入れています。こういうふうには、万全の体制を取っています。今回は十名体制で、薬剤師も入れていっしょに行きました。薬剤師をなぜ連れて行つたかという、医師は全てを診ることができないわけではないのです、整形の先生もいれば、脳神経外科の先生もいれば、内科の先生もいらつしゃいます。そうすると、薬の内容が分からないときが出てくるのです。災害時、専門に関わらず医師はあらゆる疾患を診るため、災害時における医師は想像を絶する緊張感に包まれます。そういったときに薬剤師がいると医師も安心なのです。そういうことで、今回は薬剤師も要員に加わ

つってもらったのです。

### 陸前高田市で一ヶ月活動

私たちは被災県の岩手県に向かいました。そして、途中で、陸前高田市が壊滅的な被害を受けたと連絡があり、すぐさま陸前高田市に向かったのです。各避難所にはさまざまの方が避難されていましたが、それらの避難所をずっと周り、陸前高田市の高台にあった第一中学校に1200人の方が避難されていたのです。電気も水道もありませんでした。そこに避難されていた方を一人一人診ました。それを一ヶ月間やらせてもらったのです。

一ヶ月経つてから、福井県は宮城県に行ってくださいと連絡が入ったのです。私はなぜ宮城県に行かなければならないのかと、本部に告げました。なぜかという、陸前高田市には一ヶ月以上いたのです、そうすると、その方と深い人間関係ができるのです。安心もしてくれませぬ。「日赤さん」などと呼ばれると、本望なのですよ。住民の方が安心して下さるのが、私たちには一番うれしく、それがわれわれの目的でもあるのです。一ヶ月もいれば、当然人間関係もでき、「あれ食べや、これ食べや」となります。いろんなものもいただきました。われわれが被災地の方に出さなければならぬのに、いただくのです。そういった深い人間関係ができていましたから、私は4月から宮城県に行つてくれと言われたときにはイヤだと言いました。「ここで人間関係ができてい

ますから、ここでさせてもらいます」と言いました。

日赤にはブロックがあり、福井県は第3ブロックに所属しています。岩手県に行くよりは宮城県の方が近いからそこに行つてくれと言われた。岩手県の方は、第1ブロックの北海道・東北、あるいは第2ブロックの関東で行くからと、第3ブロックの福井県は宮城県に行つてくれと、言われたので、泣く泣く承知しました。岩手県の方とお別れは、本当に涙ながらのお別れでした。そして、4月からは宮城県石巻市の雄勝へおがつ町に行くことになったのです。

### 陸前高田市から石巻市へ

皆さまも報道なんかでご存じかも知れませんが、雄勝町は一週間ほど支援者が来られなかったところです。石巻から40分ほど海の方に行つたところで途中海岸線を通り、高台にある大須小学校に行きました。雄勝町には三つの小中学校があつたのですが、三つともすべて飲み込まれてしまったのです。大川小学校のことはお聞きかと思えますが、先生が一生懸命生徒を連れて行ったのだけれど、先生が連れて行ったところは全て波にのまれてしまつて、学校は責任とつて下さいと言う親御さんがいらつしやつたということですが、あそここの地域はリアス式海岸で、この若狭湾もそうですが、目の前の海を見れば良いと言うのでなくて、後ろからも波が寄せてくるのです。

石巻から雄勝町に行く途中、雄勝病院というのがありますが、そこ

は建物の高さが15メートルで、津波が来たというので、患者さんたちを三階にあげたのです。三階にも津波が来たので、屋上に上げたのですが、建物の高さが15メートルのところは19メートルの津波が来たので全て飲み込まれてしまったのです。医師、看護師、患者さん合わせて69名いらつしやったのですが、助かったのはたった三名でした。それも流されて、山の木に捕まって助かったり、自衛隊の船が回ったときに助けられた方もいます。院長も助けられたのですが、翌朝凍死してしまつたということで、翌日の昼間までで三名だけが助かった。

その地域には医師が二名いらつしやったのですが、三人とも今も行方不明または死亡です。われわれが行つた大須小学校は高台にあつたのですが、一週間誰も助けに来られなくて、校庭に石灰でSOSと書いて救助を求めたのです。ここにも避難者がいらつしやるといふことで一週間後に多くの支援班が入つてきたのです。

### 雄勝町での活動をはじめ、何時でも来て下さい、夜中でも朝でも

私たちが4月に入ったときに、避難者の世話をしておられたのは、教頭先生、役場の職員、それに皆さまのような在所の方々でした。そのとき、住民の方を集めて教頭先生が言われた言葉は、「今日、医療班の責任者の方が大須小学校に視察に来られて、こうこうこういふことを私たちに話されました。それを必ず守ってください」と。かなり強い口調で言われました。私もその会議に出て聞いていましたが、それは

なにかというと、一ヶ月経つたから、救護所に来る人も徐々に少なくなつてきたので、診療時間を9時から6時までに決めさせてもらいます、そこにいらつしやるヘルパーさんはいてもらわなくてもけっこうですと、追い出してしまったのですね。診療時間を9時から6時までと設けたのだけれど、避難住民の方が夜中に来るだとか、朝方に来るだとか、ヘルパーが入つて来るだとか、非常にマナーが悪い。そんなのであるならば、私たち医療班は撤退してしまいますよ。そういうことを言つて帰つて行つたということでした。

教頭先生や住民の代表の方が入れ替わり立ち替わりそのような話をしてもらえるものですから、それを聞いていて、私はそこで、「ちよつと待つてください。医療班の方はそう言つて帰つたのですか」と確認をした。すると、「そうなんです、そう言つて帰られました」と強い口調で言われたので、私は「そんな人たちのことは放つておいてください。私たちは、医師も複数来ておりますし、看護師も複数来ております。複数のスタッフで来ておりますから、どうぞ、9時から6時までなどと言わずに、夜中であろうが朝方であろうが、何時でもいらつしやつてください。避難所に来られる方だけでなく、私たちは医師も看護師も2人いますから、来られない方は、一軒一軒訪問診療をさせていただきます。どうぞ、甘えてください」。そう言いました。そしたら、住民の方から大喝采でした。こうして、スタートしたのです。

ヘルパーさんというのは、地域の住民の方と一番密接につながっている人たちです。だから、住民の方の健康を一番把握しています。どうして

ヘルパーさんを追い出してしまったかというのと、救護所に避難民の方が来られると、日頃から顔見知りですから、「わー、なんとかさん、助かったの！ 元氣やったの」と、そんな話しは当然でしますしね。そういうことは、非常にプライバシーに関わることだから、前にいた医療班の方は追い出してしまったのですね。

私たちは他県から来たのだから、住民の方の健康状態なんかまるで知りません。誰に聞いたらいいかというのと、ヘルパーさんに聞くのが一番いいのです。そういったことを考えると、「ヘルパーさんは是非教えてください、そばにいてください」と言いました。看護師長も「ヘルパーさん、この人はどんなのだったのですか」と聞いていたのです。

日赤というと、非常に崇められているというイメージがあるのですが、とんでもない間違いです。「赤十字の看護師長が、私たちヘルパーに聞いてくれた」と、ヘルパーさんも喜んでいただいたのでないかと思えます。それで深い人間関係ができて円滑な救護活動ができました。

### 福井からパンを届ける

私たちは救護活動をするだけでないのです。先ほど、子供がパンをもらっている写真が出ていたと思いますが、福井市内のパン屋さんが、この東日本大震災に遭って誕生日も祝ってもらえない子供もいるだろう、私たちの作ったパンを是非届けたいという思いを持っていましたのですね。それで、福井市内の救援物資の受け付けをしているいろんなところに相

談に行つたのです。しかし、全て断られた。あるところでは、「そんな腐るかも知れないようなものを持つていくのは止めてくれ、福井県の恥をさらすようなものだ」と言われたそうです。そのパン屋さんは友人を通じていろんなところを探してもらったが、それでも見つからなかったそうです。

ところが、たまたま、友人の友人の一人が日赤のドクターの奥さんだったのです。それでその先生から電話をいただいて、「パンを持つていって欲しい方がいらつしやるのですが、どうしたらいいのでしょうか」と言われたので、「私たちの行っている陸前高田市の避難所には1200人の人が避難しているからそこに持つていきましょう」と、話しはとんとまとまりまして、陸前高田市に1200個のパンを持つていきました。

災害の際には、特に今回のような災害のときには、いろんな方々が支援をしよう、支援をしようという暖かいお心を持つていらつしやるのです。私たちは、パンを持つて行きましようとか、救護活動に行きますとか言つていますが、私たちだけが行くわけではないのです。日赤福井県支部にたくさん義捐金を持つてこられる方がいます。なかには、「私は子宮筋腫という重い病気だけれど、被災者のことを考えたらこんなことで苦しんではいけない。どうか、この義捐金を届けて欲しい」と、私たちに託された方もいらつしやいました。いろんな方々の義捐金、いろんな方々の善意、こういうたものを背負つて私たちは行くのです。

私たちは、当然、救護活動には行くのですが、私たちの活動は、皆さまでから寄せられた多くの義捐金を被災地に届けて欲しいという思いと



一緒に届けるのです。皆さまは実際は被災地には行っていないしやいませんが同じように被災地に行っていないしやるのです。そういう思いで救護活動をさせてもらっているのです、私が動くのでないのです。動かさせてもらっているのです。それはなぜかというところ、赤十字は皆さまの善意で活動させてもらっているからです。

ですから、被災地の皆さまに何をするかということは、“被災者のために”、これしかないのです。そういう思いで行っています。「どうぞ、甘えてください、何でも言うてください」は、私が言っているのではないのです。私は言わせてもらっているのです。皆さまの善意をのせて、私が代弁しているんです。私たちは皆さまの思いで仕事をさせてもらっていますから、被災者が喜ばれることを何でもさせてもらいますということですよ。

日赤は義捐金は受け付けるけれど、救援物資は受け付けないとなっているのです。なぜかというところ、例えば、かつて三國で重油流出事故がありました、「いま、ひしゃくがありません」と報道させると、全国からどつとひしゃくが送られてくるのです。三國の社会福祉協議会の事務所で受付をしていましたが、倉庫に入らないくらいひしゃくが届いたのです。善意ですから捨てるわけにはいかない。半年後、山陰沖で同じような事故があったので、それらを送ったという例があります。ともかく、報道されるといろんなものがいつぱいどつと来るのです。

阪神大震災のときも中越沖地震のときもそうでしたが、食料品が山のようになるのです。阪神大震災は冬だからよかったのですが、中越沖

地震は夏でした。それで、腐ってしまうのです。せっかくの善意がそういうことになるから、赤十字は義捐金は受け付けるけれど、救援物資は受け付けなくなっているのです。

しかしながら、今回、パンを届けたいという善意にはなるだけ応えてあげたいと思いました。市や町、どこに聞いても断られた。先ほどもいいましたが、なかには、福井県の恥になるようなことは止めてくれとまで言われた。パン屋さんがせっかく焼いたパンがそんなことまで言われた。陸前高田には1200人の人がいますがいいですか聞くと、いいですよと言われ持つていくことになったのです。

その後、パンは雄勝町にも届けました。今年の3月まで、雄勝町にいる幼稚園と小学校の子供たちの誕生日には全てパンが届けられました。とても喜んでいただいたのですが、そういった喜んでもらえるというところが、私たちの仕事ですから、どうぞ活用してくださいと思うのです。

### いろんなことでもいろんなつながりが出てくる

救援物資の話をしましたでしたが、いろんなところからいろんなお声掛けをいただき、これはとてもありがたいことだと思っています。あるとき、私のところにメールが届いたのです。それはなにかというと、アメリカのアリゾナ州のツーソンという町から届いたメールで、この町には日本人会があって、その中の一人に陸前高田市出身の方がおられ、家が倒壊したので日本人会では励ましの寄せ書きの旗を作り、それを送りたいか

ったのですね。ネットで調べているんどこに頼んだが全て断られてしまったのだそうです。

どうして私のメールに届いたのか、とにかく突然私のところに依頼のメールが届いたんです。「私たちは陸前高田市に行っていますから届けます、こちらに送って下さい」と返信しました。アメリカのアリゾナ州のツーソンから旗が届いたので、救護班が陸前高田市に行くときに避難所の第一中学校に持っていきました。その避難所の方とは人間関係ができていますから、このような旗がアメリカから来ましたよと言うと、この方が目立つからここに張ったらと言ってくださり、一番よく目立つ一等地に旗が飾られました。

「この第一中学校におられた避難住民の方が、「このツーソンという町は自分の友達の“よつちゃん”のいる町だ」と言われた。旗を送られた方のお友達が避難されていたのです。いろんなことでいろんなつながりが出てくるのですね。わたしたちはいろんなこと、出来そうにもないようなこともなんとかさせてもらいたいと思っています。」

## 今こそ、「頑張ろう、日本」

東日本大震災も来月で一年が経ちますが、元どおりになるのに何年かかるのか分かりません。もう、救護班は行っていませんが、一日も早く戻ることを願うばかりです。

昨年7月、救護班として行っていた人たち、それにパン屋さんたちな

どに来ていただいて検証会を開きました。また、救護のときなど私たちの一方的な思いだけで終わってしまったのではないかと危惧していたので、今年25日(2012年2月25日)に、雄勝町の役所の方、雄勝病院の方、被災者の方を福井県に招いて検証会を開く予定です。よろしければ、席に余裕がありますから是非お越しいただきたいと思います。

被災に遭われた方で今度福井に来られる看護師の方のご実家が、この白いうちです。地震のとき、たまたまあけだったので家におられて難を逃れられたのです。同僚や先輩や同士が、あるいはいつもいつも診ていた患者さんが亡くなられて、それでも、雄勝病院や役所の方々は、訪問診療といつて一軒一軒回られるときはみなさん涙を流してお話されますが、避難所の中では、どちらかというと、災害があつたのかなと思うくらい明るく働いておられます。それは、自分よりもつらい目に遭われた方のことを知っておられて、明るくしておられたのかなとも思いましたが。

今回の災害では、皆さまも義捐金とか、あるいは実際に現地に行つてボランティアなどされたかと思いますが、「頑張ろう、日本」が今こそ本当にマッチしている言葉でないでしょうか。この津波と地震のことで私もいろんなところから呼ばれまして、お話しをさせていただきました。その中で赤十字の活動について説明してまいりました。先ほども言いましたように、赤十字を活用していただきたい。これは皆さまの地域でも是非ともやっていただきたいと思っています。

## 赤十字活動の活用要領

お配りしました資料に「赤十字活動の活用要領」というのがあって、「応急手当の仕方について」のほかにも、「ガンなど病気に関わること」というのもあげてあります。ガンや病気のことについても話をしてほしいといわれれば、医者が来てお話しをさせていただきます。どうぞ、お気軽に活用してください。また34ページと35ページには、防災クイズが載せてありますが、ここにあるようにクイズ形式で、ざっくりばらんに説明したりしております。

ここでちよつと防災クイズをやります。全てやると時間がありませんので、是非憶えておいて欲しいのだけやります。2番、「地震のとき、家の中で一番安全なところは、次のうちどこでしょうか。①玄関、②台所、③トイレ」。玄関と思われる方は？、それでは台所と思われる方は？、トイレの方もいらつしやいますか。そうなんです、実は、トイレなんです。トイレは四方に囲まれているから一番安全と言われています。次に、8番、これは大事です。「災害時の伝言ダイヤルは？」。①171、②117、③177、④110、⑤119」。171が正解です。これは憶えていただきたいのです。例えば、171に電話して、「おばあちゃんはいま名田庄公民館に避難してます」と言うと、お孫さんが171に電話してその声を聞くことが出来るのです。そうすればお孫さんは名田庄公民館に行つておばあちゃんに会えるのです。この171を憶えていただいて、災害時には携帯電話はなかなか使えませんが、公衆電話から171に

かけていただき、伝言して欲しいのです。171にかければ録音したことも聞くことが出来ますので、家に帰つても誰も「いない」（171）と是非憶えていただきたいと思えます。

それから、このクイズの9番、「あなたが外にいるときに大地震が起きた場合、一番正しい避難場所は？」。①コンビニエンスストア、②ガソリンスタンド、③交番」。答えを言いますが、全く意外なのですが、ガソリンスタンドなのです。ガソリンスタンドは、耐震・耐熱がしっかりしているのです。阪神大震災のときにあれだけの火事がありました。ガソリンスタンドのところでは火が止まったという報告がなされているのです。昔からのガソリンスタンドはそういう設備がないかも知れませんが、全てとは言いませんが、最新のガソリンスタンドは安全です。こういうクイズをおうちに帰られてやっていただければ、とてもいいクイズになるのかなかと思えます。

### 私たちはあたりまえのことをする

とにかく、私たちがするのは、皆さんに喜んでもらえること、そしてあたりまえのことをするのは、永平寺のお坊さんがあるとき、和尚さんに対して、「和尚さん、仏法とはどんなものですか」と訊いた。そうすると、和尚さん曰く「諸悪莫作（しよあくまくさ）」と仏法用語を使われてお話しをされた。お坊さんは分からず、それはどういう意味ですかと訊ねた。すると、和尚さんは「良いことをして悪いことをしない

ことだ」と言われた。すると、お坊さんは、「和尚さん、そんなことは三歳の子供でも知っていますよ」と言った。和尚さん曰く「三歳の子供でも知っているかも知れないが、八十歳になっても出来ないではないか」といわれた。当たり前前のごが当たり前前にできませんよということですよ。いやなやつなら「おはよう」というのもいやですね。上司に怒られたりすれば、「おはよう」というのもいやですね。和尚は当たり前前のごを当たり前前にせよと言われているのですが、赤十字も同じですね。当たり前前のごを当たり前前にさせていたのです。皆さまの喜んでいただくことをさせていただけますよ。皆さまから義捐金をもらってさせてもらっていることを忘れてはならないと思っております。どうか、皆さまも、近くで災害があったなら、困ったことがあったなら、この資料の最初に書いてある携帯番号に電話して欲しいのです。

私は、今日、7時半から時間をいただいて1時間で終わるということだったので、ちゃんと終わるのがいい講師ということですので、これで終わらせていただきたいと思えます。早口で聞きづらかったかもしれないと思いますが、また呼んでいただければ、そのときはじっくりお話ししたいと思えますので、どうかよろしくお願い致します。赤十字は何も固いむずかしいものではないので、どうか活用していただければと思っています。どうもありがとうございますございました。

## 講演後の質疑応答

**中野** ありがとうございます。この会は講演後の質疑応答がほかの会と違うユニークなところですので、どうか何でも訊いて下さい。

## 赤十字奉仕団

**参加者 A** 貴重なお話をお聞きしました。これまで赤十字社には500円ほど出していました。今初めて実感としてその意義があったのかなと思いました。この資料の最後のページに書いてありますが、特殊赤十字奉仕団というのはいろんな専門職の方が集まってきて緊急時にチームを組まれるということなのでしょう。

**山本** 赤十字奉仕団というのは、明治10年に赤十字社ができたのですが、その当時から自らお金を出して、奉仕して、敵味方なく救護活動をしたのが始まりです。昭和に入ってから奉仕活動をしておられた方というのは、華族や貴族などが多かったのです。昭和の頃、赤十字の活動には街頭に立って、「お願いします、お願いします」という活動が多かったです。貴族の方というのは、頭を下げて「お願いします」というのは、得意でなかったもので、だんだんそういうのがなくなっていったのです。しかし、赤十字の活動を発展させるためには、奉仕団の方のお力がないと成り立っていかないとということで、昭和23年に日本赤十字社奉仕団が作られたのです。

昭和23年は福井で福井震災が起きました。福井震災のために集まった方々が、それ以降、集まりを作ったのが福井県赤十字奉仕団で、旧

35市町村全てに赤十字奉仕団があります。ここ名田庄にも奉仕団がありました。今は、おおい町赤十字奉仕団になっています。

奉仕団の方々が何をするかというと、災害があつたときに、まず炊き出しをやっていたのです。炊き出し訓練もされていますし、そういった研修もされています。一般の方がやられます。それが地域赤十字奉仕団です。

特殊赤十字奉仕団というのは、例えば、アマチュア無線の資格を持った人たちで作られているのが「無線赤十字奉仕団」、応急手当の資格を持った人たちで作られたのが「救護奉仕団」、などありますが、これらを総じて特殊赤十字奉仕団としています。

### 赤十字は中立・公平

日本赤十字社は国の機関でなく、民間の機関です。活動資金は皆さ  
まから寄せられるお金です。それで活動しています。なぜ、国から金  
をもらわないのか。それは、赤十字の立場は中立公平だからです。19  
91年にペルーの日本大使公邸人質事件がありました。憶えていらつし  
やる方もおられると 思います。あのとときに、犯人側と交渉にあたつ  
たのは赤十字です。テロのようなことがあれば赤十字の働きが大切に  
なります。犯人側にすれば国家や政府は敵なのです。彼らは敵側とは  
話をしません。私たちは中立・公平の立場ですから国からお金をもら  
つてはいけません。私たちがは中立が守られない、誤解を招く怖れも

あるからです。

最近のことといえば、アフガニスタンにはタリバン政権がありますね。  
あそこには国連も入つたのですが、国連も全部の国が加入しているわけ  
でないで、タリバンから攻撃を受けて撤退してしまつたのです。赤十字  
は世界のほとんどの国、187カ国にありますから、テロ側にしてみれ  
ば、赤十字はわれわれのことをみてくれるとなります。赤十字の赤の  
十字マークがありますが、あれはなにも病院や救急車のマークでなく  
て、二つの意味があります。ひとつは保護をするという意味です。赤十  
字マークの付いたところは絶対攻撃してはいけませんよと、これは国際  
ルールです。こういうことになつているので、負傷兵がよつてくるので  
もうひとつは表示するという意味です。ここに赤十字がありますよ、  
皆さん、ここにきて下さいよと。勝手に、例えば、救急車に赤十字マ  
ークを付けると罰せられます。

例えばテロ、日本は平和だからないかも知れないと言われるかも知  
れませんが、しかし、東日本大震災のような、絶対ないだろうと言わ  
れていたような大震災が起こつたように、テロも分かりません。ある国  
が原発のところを攻めてくるようなテロが起きるかも知れない。そうい  
つた場合、テロ側と交渉できるのが私たち赤十字です。県も日本政府  
も話が出来ないのです。テロ側にすれば、県や国は敵対勢力になるか  
らです。赤十字が交渉に当たることになります。ですから、赤十字は  
中立と公平を守らなければなりません。国から一銭ももらわず、皆さ  
まの善意でやっています。町内会長さんが、この5月が赤十字月間です

ので、皆さまのおうちを回られると思います。少しでもご協力いただければありがたいと思います。

### 赤十字の活動を大勢の人に知ってもらえたらいいなと思います

**参加者B** 私、本当に、日本赤十字社のことに関して何も知らないで来ました。名田庄でも日本赤十字社のことをされている方がいることは聞いたことがあったのですが、こんなふうにごい活動をされていることや、募金もこんなふうを活かされていることを知らなかったのです。今日はお話しを聞かせていただいて、すごいよかったですと思いました。いろんな活動をされているなかで、いつでも飛んできていただけのようなようなことを全く知らなかったのです。そういう情報をもっともって発信してもらって、私たちの生活に密着したことをされていることを大勢の人に知ってもらえたらいいななと思います。

**山本** ありがたいです。共同募金、赤い羽根はみなさんよくご存じだと思いますので。赤十字を共同募金、赤い羽根と一緒に思う人もいるのですが、全く違う団体です。赤い羽根は広報活動が出来るのですが、赤十字は皆さまの善意でおこなっているから、年間の収入のうち5%程を広報活動に使っているのです。テレビなどで知らせればいいのですが、あまり使うわけにはいかないので、5%と言っても1億いくらかの予算ですから、300万ほどです。それくらいならいいと言ってもらえるのでないかということですが、私たちはやっています。ほんとうはもとも

としたのですが、そういうことはできませんので、こういう形で地道ながら、各地を回らせてもらっているのです。

藤原紀香さんを四年前から赤十字の広報特使として、いろいろ紹介してもらっています。AKBも昨年から赤十字の広報特使です。AKBは非常に人気があるので、東日本のいろんな地域に回っていただきました。これは無料です。ありがたかったです。

広報費として5%を超えられないのが現状ですので、今日話しを聞いていただいた皆さまが地域の方々に、赤十字はこんな活動をしているのだと話していただければありがたいです。

**参加者B** さっきの防災クイズのなかに、「エレベーターに乗っているとき、地震が発生した場合、正しい行動は？」①1階のボタンを押す。②そのままじっとしている。③全てのボタンを押す。④全てのボタンを押す。というのがありますが、正解は何番で理由は何かですか。

**山本** 答えは③の全てのボタンを押す、です。全てのボタンを押して止まった階から下りていただければいいのです。一階でも目の前が崩れていて下りられない場合もありますから、下りられる階で下りて下さいということ。クイズの解答は置いて帰りますからお持ち帰り下さい。

### 赤十字の救護班と他のチームの棲み分け

**参加者C** 救急の医療チームが現場に到着して、そのとき、赤十字だ

けでなくほかのチームも来ますが、そういう場合の振り分け・棲み分けはどうしているのですか。

**山本** 国が医療チームを作らなければならないということで、デイーマット(DMAT)というのを作ったのです。DMATとは、「災害急性期に活動できる機動性を持った、トレーニングを受けた医療チーム」と定義されており、災害派遣医療チーム(Disaster Medical Assistance Team)の頭文字をとって略してDMAT(デイーマット)と呼ばれています。

いままでは、たとえば西宮の列車事故の時、赤十字が行くと、列車の下に入られるのは、救急隊とか警察なのです。赤十字は外に救護所のテントを設けて待っている状態だったのです。こういうことだと、救える命を救えないことがあります。阪神大震災でも救える命を救えなかったということが多々ありました。そういうことで、災害超急性期の48時間に動ける医療チームを国が作ったのです。大病院でもデイーマットがありますし、医師会からもデイーマットが来ますが、このデイーマットは48時間経つと帰ってしまうのです。赤十字はずっとやりますし、医師会もそうですが、デイーマットは最初の48時間だけで帰ってしまいます。それと、日赤とデイーマットの大きな違いは、日赤の大きな活動は各避難所に回って行うのですが、デイーマットは直接災害現場に行きます。あるいは、被災者を受け入れる病院に行くのです。赤十字は、もちろん災害現場にも行きますが、おもに避難所で活動するのです。巡回診療で一軒一軒回ります。

現場に行くと、その医者会の会長さんが医療本部の長をされてい

るので、その長の命令のもとに動きます。デイーマットと赤十字の活動は違いますから、デイーマットは災害現場に行ってください、病院に行ってください、日赤は避難所に行ってください、と振り分けをされるのです。48時間でデイーマットはいなくなるので、そのあとは医師会から派遣されるジェイマットと日赤と共同でやることになります。

(二)名田庄で災害が生じた場合、名田庄診療所の先生か、あるいは役場の福祉課の長の方が医療本部の長をされることになると思います。能登のときもそうでしたが、なかなか全体を把握できていないところがあるので、すべて私たちに委託されるのです。日赤は国や県の委託を受けて活動することがあるので、分からないところは日赤が全て担当することが多々あります。福井豪雨のときは日赤が担当して、いろんな避難所に誰々さん回ってくださいとお願いしました。

医療チームは全国から来ますから、なかには、俺が俺がというところがあつて、仕切り屋がいるのです。分からない人が分かったような顔をしてやるのがやるのが一番困るのです。日赤はあまり言わないのですが、仕切っているのが間違えたことをやると、大変困ることになります。

### 防災訓練と日赤

例えば、(三)名田庄で防災訓練がある場合、私たちを呼んでいただければいいのです。電話一本で来ます。これまで、いろんな地域の防災訓練に参加させてもらっています。訓練のときに負傷者役を住民の方に

していただくのですが、日赤が喜ばれるのは、今までは、大腿骨折とか看板をさげてやつていたのですが、それだとリアル感がないので、今は傷メイクといつていかにも傷をしているようなメイクをしてやるのです(笑)。これがとても喜ばれる。目玉が飛び出しているとか(笑)、とてもリアルなので、日赤が来ると楽しいといわれる方もいます。医師会の方や病院関係の方も参加されると思うのですが、そうすると顔が見えるので、日頃から関係が築けて、災害のときにもいい関係が出来ると思います。私たちもそういうときには是非参加させて欲しいと思つています。

**参加者D** 今日は山本様からいろんなお話を聞かせてもらい、どうもありがとうございました。東日本大震災のときの活動についてもさらにとお話しをしていただきましたが、私たちには想像もつかないご苦労がありがたかったです。ご苦労さまでした。それと、今日見せていただいた写真のなかに、倉庫にたくさんの本や支援物資がありました。あれらもあつという間に飛んで行ってしまったのでないかという思いもあります。愛のホットラインを教えてくださいまして、携帯に登録させていただけますが、いざというときに、日赤の山本様のところに連絡できるようにしたので、とても心強い思いでいます。

今の地域でも防災に取り組んでおられるのですが、そういうことにも力を貸していただけると聞いて、これもとても心強いなと思つています。今日は本当にありがとうございます。

**山本** ありがとうございます。日赤には赤十字飛行隊というのがあつて、物資をぼんと落したりして、とても喜ばれるのです。へりもい

のですが、福井の日赤にはないのです。へりは、南西沖地震とか奥尻島地震とかでは活躍しました。飛行隊があつてもよかつたと思うのは、御巢鷹山の日航機墜落事件のとき、へりだと風が起つてうまくいかなかったときでも飛行機ならぼんと落としてくれますから、とても便利でした。こういったように、離れたところや山など、飛行隊が活躍する場です。訓練に参加させていただくと、どこから現れたかと思ううちに、ブーンと日赤のマークの付いた飛行機が来て物資を落としていく。ひよこつと落としてひよこつと帰つて行くのです(笑)。そういうのも見ていただきたいなと思います。

**中野** 私も、赤十字というتماず赤十字病院を思い浮かべ、病院のなかの病院なのかなとか、戦争のときは赤十字マークのところだけは安心だとか、そういう感覚がありました。献血のことは知っていましたが、今日お聞きしたような具体的な活動は知りませんでした。先ほどのホットラインなどもそうです。思つてもいなかったことなので、非常に心強い気持ちになりました。こういうことを教えていただいたからには、われわれとしても、地域の方に、日赤の活動とはこういうことだつたですと、伝えていきたいと思ひます。もつともつと、皆が知るべきことではなかつたかなと思ひます。今日お聞きし、ニュースで見ると、日赤は、だからこのような活動をしておられるのだなとあらためて認識させていただきました。ありがとうございます。



## 災害時の出動体制

**参加者E** 東日本大震災のときに3時間で現地に行かれたと聞きましたが、そういうとき、病院で働いていらっしゃる先生たちが3時間でチームを組んで出て行くという体制が取られていることが、私たちにはピンとこないのです。例えば、私たちなら、休みを取らなければならぬ、許可をもらわなければならないなど、いろいろあります。その先生方は何もせずに待つていらつしやるわけではないと思うので、3時間後に出かけられる体制がどうして取れるのか、教えていただきたいと思いません。

**山本** 赤十字病院が他の病院と大きく違うところは、一般の病院が一般診療を第一の事業にしているのに対し、赤十字病院の一番の事業は災害救助なのです。二番目に巡回診療・保健指導、三番目に災害慰問、四番目に一般診療なのです。そこが大きく違いますから、災害があったら必ず動かなければいけなくなります。今、日赤福井には救護班の先生が6人います。そして、救護班指導者に麻酔科部長がなっておられて、そこにまず連絡が行って、誰を現地に行かすか決めます。看護師の方は看護師長の命(めい)の中で動きます。救護班の名簿はありますが、関係なしにみんな、全員が動きます。日赤福井には800人の看護師がいますが、全員が動くようになってるので、行けるものはどうかと、行かすことになります。他の病院では誰が行きましようかと、そのとき相談して行くことになると思いますが、赤十字病院は常日頃

からそういう体制になっています。赤十字病院は災害救助が一番大きな事業なので、そういった対応が可能なのです。

**参加者E** 行かれる準備とか、そういうことも・

**山本** 救護服などは全部病院に置いてあります。救護資材、担架などが倉庫に置いてありますので、ぼんと持つていく感じになっています。私たちは何をするかというと、食糧ですね。現地には食糧もない、電気もない、そういうところですから、食糧を積んで行きます。日赤病院のなかに売店がありますから、そこでカップラーメンなどを調達して。現地の経済的な面の協力もしたいのですがないことがあるので、こちらから持つていきます。

## 避難所に泊まる

今回いろんなところから現地に来られました。あるとき、本部の方から電話があり、「福井県さん、今度は避難所に泊まっていただけですか」と言われた。こちらとしては、「そんなの当然泊まりますよ」と返事をしました。被災者の方の近いところに泊まった方がいいのですから。場所はどこでもいいですからと返事しました。「なぜ、そういうことを訊くのですか」と言うと、「他の病院の方が、そんなところに泊まるのはいやだからホテルに泊まりたいと言われたのです」と。そういうところが多いので一回ごとに確認をするのだということでした。私は、「床のどこでもいいですよ、寝袋持つていきますから」と言いました。そういうこと

ともありました。こういう面が一般の病院と違うかも知れません。

阪神大震災のとき、福井県が県立病院のある立派な先生にお願いして現地に行ってもらったことがあったのですが、そのとき、有馬温泉を宿泊場所にとったら、逆に怒られたそうです。「日赤はそんなことしていない、現地に泊まっている」と。

### 被災者の受け入れ

**中野** 赤十字病院は、われわれが感じているいわゆる消防署的な機能があるのですか。消防署は火事や事故に対して待機していますが、そういう部署があるのでしょうか。

**山本** 部署というか、医療社会事業課という担当課はありますが、全体がそういう感覚でいます。いろんな病院から救護班が出てきていましたが、受け入れ先が分からないのですね。現場に行つて活動して、それを後方の病院に搬送しますよといったときに、受け入れ先を確保しておかなければならないのですが、それがどこか分からない。赤十字の場合は赤十字病院がありますから、全部そこに受け入れます。石巻赤十字病院の場合もそうでしたが、一階のフロアー全部にベッドを敷いて被災者を受け入れていました。もちろん、一般診療の方も受け入れます。一階で足りなければ三階に講堂がありますからここに受け入れます。災害があつたときは赤十字病院は全部受け入れなければならぬのです。

ここに名田庄で災害があつたとき、福井の赤十字病院まで運ぶのどれほどかかるのか、ということになるかも知れない。そういつたときには、京都の方に行くかも知れない。それでも時間がかかるときはどこかを確保しなければならぬことになります。

日赤福井には10班の救護班がありますが、そのうち8班までは赤十字病院の医師、看護師等で編成されています。第9班は市立敦賀病院に日赤の救護班が編成されています。第10班は公立小浜病院にあります。したがつて、ここに名田庄で災害があつた場合、小浜病院に運ぶことにもなります。そこで赤十字が受け入れることになります。

### 講習会

**山本** 近々、ここで何かイベントのようなものはないのですか。もしそのようなことがあれば呼んでいただければやって来ます。炊き出しはこうするのですよとか、パネル展示をしたり、あるいは応急手当の実演をしたりできます。いろんなところに行きます。

**参加者F** 私はしたことがあります。今日の資料を読ませていただきますと、あのときは緊張つてしたなと(笑)。思い出したりしました。**参加者G** 救急の講習なんかでも、一年に一回などのたまにしかやらないと、実際のときはできませんので、あんなの各地でもっとやったらいいなと思います。

**山本** そうです。各地域地域でお願いしたいのです。気楽に呼んで欲し

いのです、本当に、きらーくに。喜んで行かせていただきますので。  
**参加者G** 役員だけでなく一般の人も大勢来てもらえるといいのですが。

### 放射能の心配はなかったのですか

**参加者H** 現場に行つてこられて、山本さんのお話は身にしてみてもよく分かりました。何でもおつしやつて下さいと言われましたが、僕らはなんかあつたら、そういう場合は警察だという感覚があるのです。その辺の区別、災害と事故の区別はあるのではないかと思うのですが。われわれは、日赤というと病院のことがまず頭に浮かぶので。それから、もうひとつですが、現場に行かれて本当にご苦労さまでしたけれど、放射能の心配はなかったのですか。

**山本** 最初の質問ですが、災害があつて住民の方が避難されているのなら、そういったときは日赤に連絡して下さい。そこからスタートしていただければありがたいなと思います。警察官はいろんな調査はしますので。今回の震災でも警察官が津波に遭われた方の安否調査を、避難所に持つてこられました。警察の取られた写真には本当にひどいのがありました。そんなのも確認して下さいと避難住民の方に呼びかけていました。今、近くで災害があつたときに、何人の避難民がいらっしやいますよというようになれば、警察と連携することもあります。先ほど、愛のホットラインの番号も言いましたが、日赤福井支部に電話されま

すと、私の携帯にかけて下さいとアナウンスされますので、それでもかまいません。そういうところからスタートしていただければと思います。

それから、放射能のことですが、私たちは防護服は持つてはいません。今回は日本赤十字社の本社の判断で、ここまでは安全ですからということをやつたのです。防護服もありますから、奥の奥まで行きたいのですが、これこそ上の命令で、ここからはいいですよというところからしか、赤十字はしなかつたです。福島ではそうでした。福井県でこういった原子力災害があつたときに、原子力防災訓練をやつてはいるのですが、私たちも正直言つて、不安と言いますか、不満と言いますか、大丈夫なのだろうかと、どこまで入つていいのか、明確に分からない。どこまで入つてもいいのか、考えさせられてしまいます。

**参加者I** 実際に被災された方から電話などで連絡はあつたのですか。

**山本** 被災された方から、直接ですか。

**参加者I** はい、そうです。

**山本** それはないです。岩手県支部からだとか、宮城県支部からだとか、それはあります。宮城県支部に連絡が入つたこともあります。それは一部です。一部というのは、目の前で起つている事を見ればこれはただ事でない。連絡できるのはほんのわずかです。私たちが動くのは、震度五以上、降水量が200ミリ以上、これが基本です。このようなどころは連絡が出来ないものと判断してわれわれは動くのです。

行って何も無いことはあります。何もなければそれはそれでいいので  
す。

### 「これまでの災害とのちがい

**参加者C** テレビで言っていました。通常るときはけが人は重傷の人  
が多いけれど、今回の災害はとて大きかったので亡くなった人が多く、  
生きている人と亡くなった人を見るのが、これまでの災害と比べて違  
っていたことはなかったのですか。

**山本** 今までの災害と一番違っていたのは、心ですね、心のケアです。  
それが一番違います。外傷とかそういうのでなく、心のケアがいままで  
と全然違いました。まず聞いている私たちが我慢できなかったです。い  
ままで、聞いて、「うん」とうなずいていました。資料の21ページ  
に、「心に残るつぶやき集、東日本大震災(ツイッターなどから)」とま  
とめてありますが、これは避難所に貼ってあるのです。ここにあるひと  
つずつを読むと、自分のうちのことと照らし合わせてしまいます。被災  
者の方が言われる言葉が、これほど重く悲しいことはなかったです。た  
まらなかったです。これが一番違いました。それと、避難所ではいろん  
な感染症がでできます。ノロウイルスはもちろんのこと、いろんなウイル  
スが出てきて、聞いたことのないような名前のももありました。  
今までの災害では、こちら側が泣けばいいというようなことは一度も  
なかったです。今度ばかりは一緒に泣けばいい、そう言いました。この

写真撮ったのは現地の看護師のお父さんです。お父さんは高台から  
写真を撮っているのです。こういう状況を想像してください、といつも  
なかなか難しいと思いますが、目の前で信じられない光景が出ているわ  
けです。そのような中で、私たちが行って、同じように話しを聞いて、  
同じような対応が出来るかというところ、今回の場合はちょっと難しかった  
ですね。

(山本さんが撮ってこられた多くの写真を見せてもらう)

**中野** このときは、本当に、テレビに釘付けになっていました。これはニ  
ースとは思えなかったですね。

(震災当時の映像を見ている。参加者のいろんなつぶやきや驚きの声  
が録音されている。悲鳴に似た声もある。これは地獄や・・・)

**山本** それでは、これで私の話しは終わらせていただきたいと思いま  
す。赤十字がこのような活動をしているのを初めて知った方もおられるか  
と思います。これを機会に赤十字が皆さまの身近なものになるよう、  
またお気軽に呼んでいただきたいと思います。皆さまに、また、是非お  
会いたいと思います。本日は長時間にわたりまして、私のようなもの  
の話しを聞いていただき、まことにありがとうございます。このよう  
な機会を与えてくださったことに感謝します。本当に、ありがとうございます  
ございました。

**中野** 山本様、本当にありがとうございます。(大きな拍手)

資料

一. 参加者（19名）

朝日年男、東佐喜代、川口きみこ、木戸口武史、黒瀬春野  
治部ひろみ、下西孝明、田中友子、知原邦子、中塚一美  
中野岩二郎、中野英二、中谷洋子、中谷真一、中谷純子  
西美佐子、堀口治子、森本小夜美、山口孝志

二. 発言者

参加者A（40代、男性）、参加者B（50代、女性）、  
参加者C（50代、女性）、参加者D（60代、女性）  
参加者E（50代、女性）、参加者F（70代、女性）  
参加者G（50代、女性）、参加者H（70代、男性）  
参加者I（50代、男性）